



災害公営住宅において、 県内初となるクラブ結成

宮城県
東松島市

宮城県東松島市 小松南住宅シニア・クラブ

●会員数 29名（男性13名、女性16名）



3月の設立総会

小松南住宅は、東日本大震災の災害公営住宅として、田畑4.5ヘクタールを埋め立てた土地に建てられました。三陸自動車道インターに近く、商店街、学校や市役所等の官庁街も周辺に存在する、便利なところにあります。

住宅は3階建てで12棟あり、156世帯、約300人が暮らしています。市内では大きな公営住宅になります。大震災の津波で家を流出し、4年間を仮設住宅で生活して、抽選の結果、入居した方々です。市内各地より移転してきたために、顔見知りも少なく、住民同士のコミュニケーションはまだまだとれていない状況にあります。私（中島）自身は、神奈川県横浜市で60年暮らした後、東松島市に越してきて、震災に遭いました。住宅での

顔見知りは、仮設住宅で一緒だった2名のみでした。

交流の「お茶会」から、 クラブ結成へ

昨年7月から、住宅内の住民による交流の場として、東松島市社会福祉協議会が集会所において「お茶会」を開催しました。週1回程度、呼びかけに応えた住民が集まって、おしゃべりをしたり、ゲームをして過ごしました。ほとんどが高齢者です。

そんな時、交流の場となっていた「お茶会」に社協の支援が得られるのは、1年くらいであると聞きました。その後はどうするかと考えた時、「お茶会」を継続して、高齢者を中心に住民が顔を合わせる機会を増やし、孤立の防止にもつなげたいと思いました。そのため、社協の支援がなくなる前に老人クラブを結成して、高齢者自身の手で「お茶会」を主宰しようと思いたちました。

早速、「お茶会」に参加している高齢者15名ほどに協力していただきながら、10月頃から老人クラブの規約づくりや役員構成等に着手しました。年が明けた1月になって規約等が

まとまり、「お茶会」参加の高齢者から賛同を得ることが出来ました。その後も新しい高齢者が「お茶会」に来るたびに、老人クラブへの参加を呼びかけていきました。

そして、平成27年3月1日に老人クラブの設立総会を開催しました。クラブの名称は「小松南住宅シニア・クラブ」に決定しました。当初の会員は23名、最高齢は92歳です。東松島市老連にも加入をしました。

住民同士のつながりを 大事にしたい

シニア・クラブの一番の活動は、継続して、月4回開催している「お茶会」です。毎回20名ほどが集まっています。なるべく多くの方が参加できるように、毎回違う曜日にして、開催予定日は高齢者のいる80世帯全部に配布しています。たまには、会員以外の住民が参加されることもあり、住民同士が集まる場も少ないので、歓迎しています。

また、子どもや住民との交流を目的に「たこ焼きの会」をシニア・クラブで主催しました。自分たちで焼いた熱々の「たこ焼き」を食べ、参加した9人の子どもたちも会員も大喜びで、



お茶会のひとこま

一緒に楽しい時を過ごすことができました。

これから8月に向けては、夏祭りのための実行委員会をシニア・クラブが中心となって立ち上げることを企画しています。

今までのつながりがほとんどない住宅だからこそ、高齢者同士はもちろんのこと、住民

同士のつながりを大事にした活動を展開していきたいと考えています。

（東松島市老連会長 大山金雄
小松南住宅シニア・クラブ会長 中島和義）



みんな笑顔

